

25/8/6 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議（第 67 回）
名古屋市民オンブズマンによるメモ

会場内撮影、録音 出席者紹介まで

14:00

保存整備課長姫野：はじめる
所長からあいさつ

渡辺所長：ご出席ありがとう
オンラインよろしく
植栽管理

姫野課長：出席者紹介

瀬口、丸山、小濱、藤井、麓、三浦
渋谷（リモート）、平澤（リモート）、水越
教育委員会、名古屋城
撮影、録音はここまで
資料の確認
オブザーバー 現状変更許可案件をまとめたもの A4 で 1 枚配布
座長に一任

瀬口：事務局から説明を

管理活用課石川：資料 1

- 1) 計画の概要
- 2) 植栽管理の実施検討

- 1) 計画の概要
 - (1) 計画の位置づけ
 - (2) 計画の目的
 - (3) 植栽管理の主な課題
 - (4) 計画範囲
 - 緑政土木局管理は取り組む
 - 市以外管理は情報提供、協力を求める
 - (5) 植栽管理の進め方

- ・日常管理
- ・特別管理
- (6) 植栽管理の体制
 - 保存整備課、管理活用課
- (7) 特別管理の実施スケジュール
 - 3段階で終了するとした場合
 - おおむね10年で一巡が望ましい
- 2) 植栽管理の実施検討
 - (1) 実施検討チーム
 - (2) 実施検討チーム会議の開催状況
 - (3) 植栽管理計画（特別管理）の実施範囲
 - 実施範囲A：御深井丸西部地区
 - (4) 御深井丸西部地区の特別管理の実施計画案
 - 伐採187本
 - 選定84本
 - 切戻選定125本

図7 伐採位置図

令和7年度は予算内で

本格的には令和8年度から

写真：文化財に影響 西北隅櫓に偏っている
 石垣へ影響を及ぼす可能性
 来場者への安全性が懸念
 密植され見通しの妨げ
 剪定 石垣へ影響を及ぼす
 見通しを阻害 土塁を隠している

14:26

瀬口：質問意見は

小濱：図7 伐採は根から切り倒す？

名古屋城：そう

小濱：丸の意味は？

名古屋城：枝の大きさ

小濱：これだけ伐採するとすかさず
どのくらいの割合になるのか

名古屋城：3 ページ （4）表 5, 6
高木 180 本 伐採 103 本

小濱：半分以上なくなるということだね

瀬口：ほかは

麓：十分検討されていると思う
文化財への影響を及ぼすおそれ
石垣、重文建造物に被害
それ以外 よその例 あまりにもたくさんありすぎて防災設備設置している
が
消火設備と建物の間に樹木 水が行かない
ある意味文化財への影響
そういうものもなくなると思っているのか

名古屋城：建物に関係する樹木 1 本 1 本確認した
消火活動 重要文化財とあわせて同時変更で行う予定
大丈夫だと思う

麓：そういう視点があればよい
2 つ目 3 ページ図 6 名勝庭園は対象外
枝の選定 高度な技術を持つ人が剪定していると思う
A-E 名勝庭園ほどは気を使わない
ばっさばっさと切ると見苦しい
「魅力的な造園空間」よろしく
3 つ目 市民に親しまれている樹木の「補植」

名古屋城：補植 もみじ、さくら 重要
優先順位は低いがサクラは重要なファクター
補植 将来的に考えたい

麓：よその例 補植はせずに新たに目が出て育つ
そういう方向に管理しないと
遺構に悪影響を与える

藤井：表 5 説明が欲しい
高木というのは何本あるのか
中木 対象だけ記載ある
概数で結構

名古屋城：資料を持ってきている しばらくお待ちください
西部地区だけでない
御深井丸 高木 1303 本
西部（7 割）＋茶席群（3 割）

名古屋城：全体 高木、中木 スライドで表示

藤井：ありがとう

三浦：2 点
やぶ 防犯的見地 遠くから見えない 犯罪の温床
ブッシュができないように
低木に入っていない 今回除伐されるのか

名古屋城：高木・中木がないように

三浦：補植 史跡において明治維新以前 植生を復元する
ほとんどはわからない
名古屋城 金城温故録 絵図に樹木がどういうものが生えているか書いてある
マツ、スギ
近代になってから生えたものか

名古屋城：植栽管理計画 金城温故録 記載
それに基づいたもの そのようにすすめたい

瀬口：図 7, 8

金城温故録との関係

どういう風に手を入れているかわかるように
建前は金城温故録に従う

三浦：金城温故録と現在 全く違う
補植は保全

瀬口：いかに違うか示して
計画の目的 歴史的景観を「作っていく」
植栽管理計画にはない
明治以前 補植が目的に抜けている

名古屋城：植栽管理計画 43 ページ 「金城温故録の活用方法」
樹種名、生育場所 近世をしのばせる 今後補植する際は参考に
実施検討チームで樹種を検討したい

瀬口：「新しい造園空間」と齟齬があるのでは
全然違うものになる

名古屋城：金城温故録にすべて合わせて植栽は難しい
植わっている木をどう管理するか 今回の資料
できるだけ金城温故録にあわせる
御深井丸茶席群に諮るときには説明
現状どうするか説明

瀬口：管理だけでは、石垣、建造物 チェックして剪定・伐採
「造園」を主張 資料がある
対比表が出ていないとわからない
御深井丸北 杉が植わっている現状があって、こういう観点から切る
市民に愛されるサクラ、モミジ、マツは植える→管理を超える

名古屋城：「補植」できるだけ少なくしたい
伐採、剪定で管理したい
過去との比較 今回示せていなかった

瀬口：ほかは

三浦：植栽管理計画

28 ページ 金城温故録記載樹木

絵図が引用されていない

図は確認されているのか

名古屋城：保存活用計画資料編 植栽位置確認

それを落としてある

三浦：金城温故録 分かりやすい図

落とし込んである 28 ページ 違っているように見える

あくまでも元の資料

1 本ずつの木同定されていないが、だいたいわかる

江戸末期写真 高木マツ、スギ

植生の復元 全体を基に戻すのと別とつながっている

変なもので補植するのではなく

金城温故録の樹木の原図を添付するとはっきりわかる

名古屋城：三浦先生指摘 金城温故録確認する

瀬口：他は

私から 3 ページ 実施検討チーム

業務を請け負うことになるのか？

違う業者なのか

選ばれると業務がとれるのか

名古屋城：そのまま仕事が行くわけではない

新たに入札して業者を決める

瀬口：通常 選考委員 業務を請け負う側に入らない

この方の会社 入札に参加しないという理解でよいか

名古屋城：ここの業者は、入札をする権利はある

瀬口：発注と計画が一体化

設計・監理 公平性の原則に反する という考えもある

よいのか

名古屋城：建設業協会から選んでもらっている
計画において、建設業協会にバック
すべての業者が把握している
指名競争

瀬口：名古屋市はそういう風にやるのか

名古屋城：そう

瀬口：プロポーザルは通常入札できない

名古屋城：入札の透明性は確保したい
今年度は予算をかき集めて年度後半に実施したい

瀬口：お願い

他は

現状変更許可が必要 どうするか

目的も書き直し、金城温故録も付け加えて審議すべきか
これでよいか

三浦：除伐は認めていいのでは
補植は別

瀬口：優しいお言葉

資料 教育委員会？

国だそうです

修正するが、現状変更許可は必要な手続きを進めることを了解
議事は終了

14：56

姫野：瀬口座長、円滑な進行ありがとう
オブザーバー コメントがあれば

渋谷：接続が不安定

ご議論ありがとうございます

樹木管理 名古屋城だけでなくほかの城郭でも問題

ほかの構成要素 マイナスの影響 それを除伐

加えることで、補植の際にご議論 近世末の姿を目指す理解

樹木伐採 暑い中ではあるが、段階的に徐々に管理 配慮している

全体的な方針 進めたら

平澤：全体が障害のある状態

一通りやっていくのが先決

麓委員 支障の除去 将来的に風致をどう作るのか

樹木の取り扱い重要

実施を重ねながら検討を深めて

三浦委員、瀬口座長 金城温故録との関係 確認できるようにしながら

今の議論 本丸、二之丸、名古屋城のどこかの時点 目的としていない

名古屋城の長い歴史

都市公園利用 総合してどうするか 実際の作業進める中で検討を深めて

水越：公共空間 大雨、猛暑 気象の関係

樹木の倒木が課題

歴史的景観配慮は大前提

安全面もご配慮して

姫野：ありがとう

以上で終わり

15：03